

研究計画書

研究課題名

全身麻酔後の咽頭痛、嘔声、嚥下障害の実態調査

研究等の概要と方法

【概要】全身麻酔では人工呼吸管理が必要であり、気管挿管や声門上器具による気道確保が必須である。特に気管挿管は確実な気道確保が可能であるが、嘔声、喉の痛みなどの合併症がおよそ50%に起こる。多くの患者さんでは術後2、3日で症状が軽減、消失するが、まれに回復までに長期間を要することがある。

本研究では、2014年4月から~~2022~~²⁰²³年8月までに当院で全身麻酔を受け、術後の咽頭痛や嘔声を主訴に耳鼻科外来へ紹介となった患者を対象に術後の転帰、術中の要因について調査を行う。

当院で全身麻酔を受けた患者のうち、術後の咽頭痛、嘔声で耳鼻科外来を受診した患者の診療録より、年齢、性別、身長、体重、手術の基本情報、病名、術式、耳鼻科での内視鏡所見、声帯麻痺の有無とその転帰について検討を行う。

【方法】

診療録などの過去の診療情報を用いて専ら集計、簡単な統計処理を行う研究である。介入はなく、患者の属性が予後に及ぼす影響を後方視的に検討する。

研究等の対象および期間、実施場所

対象は2014年4月から2023年8月までに全身麻酔で手術を受けた患者とする。研究は同一施設内に限り、情報は外部には提供しない。

倫理審査申請の要点

- 学会発表での必須要件であるため
- 過去の麻酔記録からデータを抽出する。
- 氏名は含まない

2023年 11月 6日

J A 広島総合病院を受診された患者さまへ

当院では下記の臨床研究を実施しております。本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせ下さい。

研究課題名	全身麻酔後の咽頭痛、嘔声、嚥下障害の実態調査
倫理委員会承認番号	
研究の対象	2014年4月から2023年8月までに全身麻酔を受け、術後の嘔声、咽頭痛、嚥下障害で当院耳鼻科外来へ紹介された患者
研究目的・方法	本研究の目的は気管挿管の合併症について検討することである。診療録より、年齢、性別、身長、体重、手術および麻酔情報、術後の耳鼻科外来での検査所見を抽出する。
研究に用いる試料・情報の種類	診療記録および手術記録
外部への試料・情報の提供	なし
個人情報の取り扱い	使用した情報から氏名や住所等の対象者を直接特定できる個人情報は削除いたします。また、研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も対象者を特定できる個人情報は使用いたしません。
利益相反の有無	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 ()
お問い合わせ先	廿日市市地御前1丁目3番3号 J A 広島総合病院 麻酔科 研究責任者：大下恭子 TEL：0829-36-3111 / FAX：0829-36-5573
備考	